

# 令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
基礎柔道整復学1							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
柔道整復学科・夜間部	1年	前期	山本 光彦		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	基礎柔道整復学			座学	2	21	
科目概要							
<p>柔道整復の基礎知識を身に付ける科目です。                      柔道整復術の概要、柔道整復師の業についての理解、および今後の柔道整復学の基盤となる「損傷」について全体像を把握し、理解します。                      また、骨や関節等の損傷における定義、種類、分類、症状について理解し、説明できるようにします。</p>							
目標							
<b>一般目標(GIO)</b> 本講義を学習することで達成されるべき目標		骨や関節の損傷を細胞レベルまで理解したうえで記憶し、柔道整復理論をはじめ、整復技術や様々な疾患・損傷を学ぶ際に、より正しく深く理解することにあります。					
<b>到達目標(SBO)</b> 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)		①人体に加わる力について、複数の選択肢の中から適切なものを選ぶことができる。 ②損傷時に加わる力について、複数の選択肢の中から適切なものを選ぶことができる。 ③痛みの基礎知識について、複数の選択肢の中から適切なものを選ぶことができる。 ④骨組織について、複数の選択肢の中から適切なものを選ぶことができる。 ⑤骨の損傷について、複数の選択肢の中から適切なものを選ぶことができる。 ⑥小児骨折・高齢者骨折について、複数の選択肢の中から適切なものを選ぶことができる。 ⑦骨折の治癒過程と予後について、複数の選択肢の中から適切なものを選ぶことができる。					
履修に必要な予備知識や技能							
柔道整復術は民族医学として伝承され国民に受け入れられてきました。 柔道整復術の理論や技術を継承することができるよう研鑽をつみましょう。 骨折を柔道整復術で整復するためには骨を組織学的に理解する必要があります。 また、よりよい治療を行うためには組織損傷が発生する要因や身体の基礎的状態の理解も不可欠です。							
教科書・参考書							
『柔道整復学-理論編 第6版』(公社)全国柔道整復学校協会(南江堂)							
受講上の注意							
教科書および配布資料を中心に講義します。単元ごとに小テストを実施するので復習が大切です。通信機器の電源は切っておくこと。積極的な授業参加を希望します。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (クイズテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	60	20	10			10	100
回数	授業内容				教科書	教材・持ち物	
第1回	柔道整復術 概説				P.2-P.9	教科書	
第2回	柔道整復術 概論				P.10-P.11	教科書	
第3回	人体に加わる力 損傷時に加わる力 ・ レポート				P.12-P.15	教科書	
第4回	痛みの基礎 ・ 小テスト				P.16-P.20	教科書	
第5回	骨損傷形態と機能 ・ 小テスト				P.21-P.23	教科書	
第6回	骨損傷の概説 ・ 小テスト				P.23-P.24	教科書	
第7回	骨損傷の分類 ・ 小テスト				P.24-P.31	教科書	
第8回	骨損傷の症状 1 ・ 小テスト				P.31-P.33	教科書	
第9回	骨損傷の症状 2 ・ 小テスト				P.33-P.35	教科書	
第10回	骨折の合併症 1 (併発症)				P.35-36	教科書	
第11回	骨折の合併症 2 (続発症 1)				P.36-37	教科書	
第12回	骨折の合併症 3 (続発症 2)				P.37-38	教科書	
第13回	骨折の合併症 4 (後遺症 1)				P.38-39	教科書	
第14回	骨折の合併症 5 (後遺症 2)				P.39	教科書	
第15回	骨折の合併症 6 (後遺症 3)				P.40	教科書	
第16回	小児骨折				P.40-41	教科書	
第17回	高齢者骨折				P.41-42	教科書	
第18回	骨折の癒合日数 ・ 骨折の治癒過程				P.43-46	教科書	
第19回	骨折の予後 ・ 骨折の治療に影響を与える因子				P.46-47	教科書	
第20回	定期テスト						
第21回	振り返り					教科書	
実務経験と本講義との関連について							
埼玉県さいたま市で接骨院を開業し36年間の施術経験をもち、柔道整復術の基本と骨折の症状について講義します。							
メールアドレス							
m.yamamoto-t@nihonisen.ac.jp							